

18:1 かなりの日数を経て、三年目に、次のような【主】のことばがエリヤにあった。

「アハブに会いに行け。わたしはこの地の上に雨を降らせよう。」

18:2 そこで、エリヤはアハブに会いに出かけた。そのころ、サマリアでは飢饉がひどかった。

18:3 アハブは宮廷長官オバデヤを呼び寄せた。オバデヤは【主】を深く恐れていた。

18:4 かつてイゼベルが【主】の預言者たちを殺したときに、オバデヤは百人の預言者たちを救い出し、五十人ずつ洞穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養ったのである。

18:5 アハブはオバデヤに言った。「国内のすべての水の泉や、すべての川に行ってみよ。馬とらばを生かしておく草が見つかり、家畜を絶やさないとすむかもしれない。」

18:6 二人はこの国を分けて巡り歩くことにし、アハブは一人で一つの道を行き、オバデヤは一人で別の道を行った。

18:7 オバデヤがその道にいたところ、エリヤが彼に会いに来た。オバデヤにはそれがエリヤだと分かったので、ひれ伏して言った。「あなたは私の主人エリヤではありませんか。」

18:8 エリヤは彼に答えた。「そうです。行って、エリヤがここにいると、あなたの主人に言いなさい。」

18:9 すると、オバデヤは言った。「私にどんな罪があると言うのですか。あなたがこのしもべをアハブの手に渡し、殺そうとされることは。」

18:10 あなたの神、【主】は生きておられま

す。私の主人があなたを捜すために人を遣わさなかった民や王国は一つもありません。その王国や民が、あなたはいないと言うと、主人は彼らに、あなたが見つからないという誓いをさせています。

18:11 今、あなたは『行って、エリヤがここにいるとあなたの主人に言え』と言われます。

18:12 私があなたから離れて行っている間に、【主】の霊はあなたを私の知らないところに連れて行くでしょう。私はアハブに知らせに行きますが、あなたを見つけられなければ、彼は私を殺すでしょう。しもべは子どものころから【主】を恐れています。

18:13 あなたには、イゼベルが【主】の預言者たちを殺したとき、私のしたことが知らされていないのですか。私は【主】の預言者百人を五十人ずつ洞穴に隠し、パンと水で彼らを養ったのです。

18:14 今、あなたは『行って、エリヤがここにいるとあなたの主人に言え』と言われます。彼は私を殺すでしょう。」

18:15 すると、エリヤは言った。「私が仕えている万軍の【主】は生きておられます。私は必ず、今日、アハブの前に出ます。」

このオバデヤはオバデヤ書を残した預言者とは別人です。彼の態度を賞賛することもできますが、批判する人もあるでしょう。彼は百人の（正しい）預言者を「かくまい、パンと水で彼らを養い」命を救ったのです。それは命がけの行動でした。

一方、預言者エリヤのことをアハブ王に告げるとは、自分が殺されるだろうとそれを拒みます。エリヤが信仰の確信を持って主の前に行くのとは

対照的です。エリヤは勇敢ですが、一方オバデヤを危険にさらすことには無頓着のようです。

このように人にはそれぞれの使命や賜物があって、皆が同じではありません。私たちは主のみわざを求めるのみです。

今後オバデヤは命を省みずエリヤのことをアハブ王に告げます。主が心に働かれるとき、人は内側から変えられ、自発的に喜んで自分を犠牲にもできます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

